



紙卷

西
字
子

四



掌中叟林舎乙由發句集

春之部

二月の〜蒔繪や法〜門乃松
 水や井戸〜をり、唯ひ神
 孤燈う華法〜又面白き喜ふ多ふ
 経樂もゆれえき〜さし日新
 三石老姑芥せ元旦のめ〜もふ後ひて
 ふふ孤燈年〜や根白舛



至居岩扉の隅を志清くい燈もあきも
ひくまをほめ去を待ゆる

何く燈より苔丸をく一光をかたり縄
揺らめく廻さるるもちりくも川層
新水や老成を子れく清く井筒

こゝの芳燈の花は先達と大衆すあ
十方庵り古きくの音信不告あーりんか
何ものをくく野くを初こよりみ

笠縫も綿さく出給や若葉摘
組板乃報びあくあくあけう給
約下訪ふ型個数人ああ来つて

人曰く一素にけ世をきり一人をくく
留め世や暮すくくく証乃喜
兄中よりあふあきかーあー梅結花

元春結名を給あれえ梅下助とあふ
寺の梅折ゆー盛あうれえ

心くのもや実を待寺乃正免花
六神身納

林の威張笠下や梅の白ひる
雪の若でお海一う歌をの意
うふひまは啼く日受林も静まりぬ
意さうぬ身成さるる柳うさ
多うれろ柳又折ふ際るうさ
唐縁ふも彼名ふ志う歌柳哉

船態美乃院より士峯幽るふ見ゆ歌

詠免出に富士や路地の匂とす
象を院庭起く鳥やおほる月
清るうや何をわすれて中う入

東花坊う新免乃屏風小蓮六わりて

白程を連一と落出ーて

ふ多う来くう机乃墨中六路
うふひまよ返奇の連交蛙う如

天神身納

牙々一法日も妻ふとて自在行
半の角落ぬまのい色 祢まん像
涅槃まや浴室ハまを裸む
老僧ふ死さうい何りねけん像
風人を送
晴小露くぬりこめぬか既陀佛
原卧て早ふかす影や夕を暮

二月末の又日の菜種天神事とらや

神垣や菜まをけり又 饅頭の舞
あまをるまゆも何うくまの横
ふんをりけ笑ひ出しりう山さくら

蕙蕙の像

芳好まをるまゆも何うくまの横

蓮二と送

花の香を何うくまの横

ふふ良し何事亦秋小節

筆法以伴遠下之八筆様

数くも法屯にもりり事志多

か賀村代女小對

園の名結笠子一芳一それ乃雪

曲あり即雪りいそあり竿釣籠

三日存も強く小更籠也挑乃酒

雪中より人乃舞り有り挑能花

け葉を餅り橋れく花咲ぬ

出代乃蓮や釣籠忠種心まて

おろり能種も有りてや清らる

秋秋を送詩

持歩り葉や風呂者上旅す免

漁棠冬喜以静あり候小きり

山少路やあり流れてありけ

養ぬ人強指く度也前乃花

龜山八幡宮奉納

松より後そ如續ひ矢もお世ふや後
故へ赴く人と送歌

道くも大津給ふ色着の是

仙人乃基も持さ民あふひうた

素心と海より清り平八作安ふゆ依

まけ笠や鏡とよるると如前走和

於麻と城とく

川喜々様もくく死後麻ふり

強生岬日田村川とるく

光陰乃矢も川喜や田ひ川

常能啼後くく夢り月日星

夏之歌

川雨かきく出ま歌給う那

ちま路少く

骨て何志園扇とるく一又衣

ほろろ交は梅摩乃身のめと時

山家山々

時鳥卯年、跡まて歌もあし
わくを交す一歌く、結月乃欠
夕暮を坤ふられ、何と行くとまに
滝佛や乳を多し、孫も比丘尼寺
色く結朝乃帯や、花漸堂
彼お詠は人のあろや牡丹畑

古山亭に中より、まねふ卯月の歌

いまこそ愛されま

わささうふ牡丹の歌、乃、旅森うふ
後阿事し、歌の間結もや、か記つとも
伸不、然も隠れ、然、海や、杜若
芍薬乃、一味、喉あり、醫者、の、危
う、交、草、也、と、釣、也、何、ち、く、結、岸、ふ、咲
や、く、刺、児、も、折、ふ、や、芥、子、の、花

あもろ菴のぬいし 霧のあふんてつとめしの
日筆をひらりととよ一富士二鷹とひと
はなすそぞろにふまはりのてめえこそ
あられ又竹をまじはんの君子よあそびて
今更りふへ或もあそびにされをぢあを
子菜の始とて七十の童女子
一句と送歌

作の子れを子なりその子き子まで

同〜木倉堂にて

程のりれ衆も蜜柑ををれあふ時
紫陽花よあそびを交約日夕日うあ
山うけや踏子とのほほ田うへ唄
間〜に顔見合をう〜田植うた
初昆福地能神めを

八乙女を田う〜佃ふをうり夏神楽
あつあつとよきや大河と一誇れ

追悼

薬草も屯くも向新夏野外
夕顔結露千子形ハあうりも
南天の老や昔年此実乃隣
中戸も此路を人あり壬午の猿
こしう和や人善り手は夫和橋
逢坂の急うそ象と見侍りて

今や起く霖乃清あふ象の氣
石山結るもやこけは花ふあうは

画賛

藤うこれの籠貴人雲り螢と那
のんあゝわれも淋しん此露の
影落る幾り枝や青りし

東武へ赴く人と送る歌

雲の夢は免く一石二も川花子
沈豆結糸く乾くや何を女貴

毎乃名を酒みもあつて糍りま
蝶の羽も流し通ふやぬきをけ

春波うね国へ赴くと遠流

姫申りも鬼をあれーや葉はる

加賀のふた女は流にやうり逢ふ

九重代一幸とく歩切は申りうま

高野女人をささく

百命もを難せりふ名ふとほるる歌

蛭子もおとく手あはてぬりぬ

後秋のうらな事なりーをたあふ

くあさくあへ別時時

あつらふよ日進ちしすを風車

撫子とらんくや乳の張布はり

揃りしと暑以知りありむむ山

ぬえり

花よりも一ぬきこの後蓮乃音

蓮池之寺寺をくこ土乃何也
 之の瓜や部へ出れえ 金忠葛
 冬の月能 時ふ小景も一物一
 見ふもくや秋の初更ありけ
 月能中と浴ふ抱ひく廣沢の月
 細涼と伴氏さん其姑孫の子金
 かへーとるそ春の清めふりつ
 魚丸芋五葉のかきふきんこく

粟と芋能下以多んとかへーとい
 名ふ無へく瓜名母とあん孫め
 玉と産卵のうな菓也池乃月
 新の藤後う扇と道りー小
 涼ーゆと百里村ー多う扇うを
 すーとや夢もぬ多り 篝 梳
 夕まゝ笑々歌 中河 見付りり
 書と笑ひ秋をよそふ山の様り

幻と庵あり花能何〜真の如く
いふくも何〜此書の多に折ハ巨魁の
友能さう〜こまらぬ漢の〜ぬも
あり〜か〜んや手以真と云ふ其て教習
の宋と花然と送休能小端能又と云
直孫の書と能き〜能きの書と云ふ
とよ〜の事と云ふ

涼〜とやされ墨を以山も云〜

雪能書まこの山と交りまきり
不壇紙下まこりよの何つと云ふ
ふぬや智恵とぬ〜のりりかの

秋之部

凌宵乃死吹消〜今朝の秋
秋を何や能もあ能調子并
立琴に風も雪井乃あ〜能
ふふ〜ふか〜て裸や能婦人

とそ琴や秋海裳乃瓜はつを
 机をたてし欠や星のふれよと
 星合也橋と品しそめか〜ん
 秋もまゝと孫居りそ秋阿つさ外
 定り孫純きもうあ〜ぬ海あり
 小車乃乃くやあ〜もままつり
 妻は身はうりそはあ〜

おもひのけと舞ふふわけと〜あ〜

まつ宵小穿れ梢やあすあ〜ぬ
 名舟や橋を落とも舟乃〜
 やそ流敷山をけ〜はや乃ふの舟
 名月やけ〜孫親も橋ま〜
 名舟やい川よの山我悲勢とも
 竊と家紙ふ眼むやう〜あは月
 名舟や箇舟もゆ〜他舟もけ
 いとよひやけあ孫留の園を〜

十六夜や露出跡透以人よりと海
山麓や蕨まきくは草く放生會
松茸跡忍び年あつうは豆腐うま

亡父の忌日よ

まはひの啼ふ泣あても秋葉
麻の節あつり角をあつり
秋風やあつりぬくく麻乃あえ
為の暮れあつる山をまきく春し

野上の里あき

萩とえく居れも薄うまの秋草
近付り観さあてく秋 踊りか
八節や踊り乃足をかしくまり

八月二日武蔵中身ほりく人と悼
惜まれく草にそ入る二日内
初丁や一智層く文字う穿
坂屋むく仕とよてをく一の秋

ひさしへ遠くもよき花

画賛

蘭の香を盤下あむきりくせ

山田屋何くうりあき

兼能ふまよめや既陀の墨所

夕顔や秋も扇よのせりまに

ゆふのやも枕仕盡れ形わけりぬ

待青や立座らるゝ家尊の松

ぬきあふ一地蔵をぬれてかどりか

刈仕おふ田にうつりて案山子うま

画賛

横平ふかき一まきくや露乃は

おいらくもきりうき一か

雪をまことうりあり摘りては

波をのくも洗りぬきあはる

八重菊もりふ九日乃あはひの如

秋の佳を抄ひく

菊を以て花又葉多し一寺の菊
世に多し葉多し花少し一葉の花

十三歌

盗人亦あ然照月や夏をこり
夏蟬乃葉多し抄ふ十三歌

一とせ抄とる能くう露不焼蛤の
何處一せしきりもは菊月の花あり

きりこりこりもは秋法抄をいそをひく

其的其席の奥とあり

蛤乃跡平之氣記より 柚味増うた

後々来て子も飯喰ふや稻子中

林間より仁王も破りて 石多し

未葦亭より

松喜し 稻よむ之をりみち 新
の秋結及く 西月は 石多し

老母の安子籠りて人の心へ

明小菽は木の葉も移りて

兔乃画賛

何れも何れも居る秋のうら

九条母を屍もくはるに何れも

冬之節

赤い実の何く 孫は初しうら

葉未焼くうち冬もあはれ時

乙高亭に招れり

金屏戸乾くしうら

蓮う忌や拂子ふらぬ暁もあ

枯草も雪や跡しうら 池乃鴨

鶺鴒も冬立れば乃十数り那

蓮池も根も好ましく十数り

風や草も少くさぬ 松

松

菫菫の塚子

春雪あふ 跡残るさかや 春仙屯
木兔孤目まき 春あけ死落葉
春まきさや 一臥冬 又むらふ風
素道か菊 宅と笑し

春不毛 尾籠乃 泣くや 忍ひす 穰
足高り 櫛と 残るて 指研
すしりゆき 春林の 春籠と 春ひと 春

世に人々 愛せし 見えか 一と 終るも 終る

隠れ家や 籠取り 見え 冬牡丹
冬籠り 櫛一 痛籠り
枕りも ちりぬ 豆腐や 冬籠り

秋まか入春の時

世の中のかきこり 籠けり 水
吹りや 子高も 川流曲り 形
皆無 終隣も ありと あり

星の秋に梨地と啼やせし子を
まの電やまゝ持置しぬ藪らじ
風孤子に砂子果報や休乃香

大漢子

香らんや帆城とつらり約う蕨
鷄乃りまはれてるあつてはさ

小野結湊の汐に於て

乃るまゝと三連入りては夕にうな

月影と乾く雲とみをほくし
冬の月白く豆腐と梅乃花
鶯結尾乃るるるるるるるるる
うとんを人牙喰とるるるる

管と茶筌と淋しく秋ハ冬也の

蔓小巻

わハ香る隙を歩けりや緯多美
木のけり結やうふあまへを生海氣水

獵ハや梅も眼乃むくきとき
備ハやハ形の薪も山狭出於
煙火やあつまふれを早ひし
あつた方よりやのまを

しのけよと大黒取巾とやむ

あつた名張あはまのどけき

世の言を改ぬもうきし九取巾

紙子あつて居るや作所の衣配り

あつたを今もやりの喜あま

象数も百乃行着やあつた市

まゝにや馬もあつた敷の中

うゑいすも一そりきりまの因

酒もあつた餅も搗はあつた不

言所してまをたの

隠れ象やあつた梅戸をま忘れ

あつたあつたあつたあつたあつた

雪はまの片際ふきとめり年路市
竹雨くみ紙綴り煉を掃せりり
葱一把割ふくまきと忘れま
やうの肉りふのえ手や梅乃雪

掌中新五百題初篇

田喜菴護物 輯

春之部

元日	花春	今朝春	初春	立春
えりやそのふよまきこ ねりけ	花のこまね 乾ちりさ ものひねり とりり	日ののり もさうや こまきし りさのま	るのね よんそ びるま きのま をりん	春の ゆや梅 とさう くさる 指のえ
移竹	蒼虬	柀儿	樗良	士朗

初日 初日影さほ也 山田ハ 落の也 芦舟

初空 初空也 舟越とく 竹をふめす 夕彦

初鳥 昼くく 烟あふく 夕川わく 班象

若水 若水也 梅のあふく 菊結露 二柳

初曆 夕川曆はくく 死ぬるあふく 蓼太

初夢 初夢也 ありのく 夕家系 枕 漫

書初 書初小 史邦く 涙 先 恋 夕彦

蓬来 夕川く 夕人 のく 夕小 夕 斗入 亀六

水祝 嫁くりの 水祝 夕く 夕く 夕く 夕彦

萬歳 万歳 夕く 夕く 夕く 夕く 綾彦

猿曳 猿引く 夕く 夕く 夕く 夕く 浦人

子日 小鳥あく 門も 那中 の子日 乙二

小松引 老う身也 杖く 夕く 夕く 夕く 樗良

七種 粥く 夕の 夕く 夕く 夕く 夕く 佛仙

若菜 夕ハ 夕の 夕く 夕く 夕く 夕く 完來

芥

芥垣のうらやまゆる芥

椿堂

芥

久らうや芥もてゆひー芥の丈

保吉

飾焚

夜の鞆ふとんとのめととさなり

尺艾

養父

養父入や枕の逗のぬゝ逢

白雄

御忌

おにま女や系せぬる御忌詣

蘇村

余寒

簞虫の不性よおまふ余寒ふ

漣漪

春雪

も侍の雪もろけふとこのとえと後

平角

氷雪

秋の雪もろけふとこのとえと後

政二

残雪

消のそ敷雪ふと折ふ子供うね

士朗

雪解

白波とあり川破乃雪も融け

閑文

長閑

波ふふふ麻のりりりりりりり

春鴻

陽炎

ゆきやぬくくくくくくくくく

其翠

糸撻

いと撻ふけけけけけけけけけ

白雄

霞

阿そらそを休んよねもや霞む

原水

春風

もねもね果あきさなるの起し去

松井

福壽州

もふもふ極く暖くも後春も

太無

新五百

梅

梅下とてう家家の梅の咲よけり

普記

梅月

能くも森ぬ秋うらる梅の月

青蘿

散梅

はやくと梅らる秋の尾うけ

楞堂

柳

わくとも西をもむらぬ柳うら

不審

青柳

柳こもまきし枝よとく舞

士朗

梅柳

梅もめて柳ハち乃夕う那

保吉

椿

鮎のとも梢の枝ささふりり

眉山

木芽

柳の芽は春の枝よけり

春臺

春草

春草のうへは流ぬるり敷うら

曉臺

草萌

草の戸やあふるも前出法

乙二

落臺

うし形や老て花さく落の草

五明

土筆

碎こもまきし枝よとく舞

全彦

百子鳥

常りし似てぬるもよ百子鳥

士朗

鶯

春里よ鶯のさの小笠うら

瓜坊

雲雀

をさう野や層うらとすふ二人連

春鴻

駒鳥

駒鳥や峰うらとすふ二人連

柳居

響

うそ傳や穿た破まそそ後うろ

圖南

猫戀

うれまそそ猫も悲のむい月

士朗

白魚

白魚やすこしはうりてそ家へ

成美

蜆

ひらぬハ松のこふりうそそ

昆明

海苔

海苔く免え鷗くそそあうり

乙二

衣更着

さけそそや唐へも舞ふ鶴の塩

冬彦

初午

初午やそそ程うりま日のあそ

並村

薪能

芝能の火うけそそ町をうれ

仕侯

涅槃

涅槃まやわろくと鳴ハ何そそ

月化

彼岸

お梅ハさそそ彼岸の入りうれ

大亮

二晝

卯もそそぬ旅寐よ二日又

升六

出代

出代りの馬子まのりりうれ

五明

夙巾

切そやそそとあれやいうのあり

曉臺

朧月

朧めて廿日あそりり 朧の月

士朗

春夜

そこの夜やまそそあそそ 砂子

曉臺

春雨

まそそや昼ハいらのそそあそ

成美

片江目

五

春山 魚のこゝろと松ハ松く くるりの山 來賀

山焼 や木のうふとる 節の麻 白雄

春野 まきの野や疎のやうな 鳥う飛 吾彦

春水 ちりまきの雲りもれり ちきの糸 月居

紅梅 ぬ梅又露あくるまゆ 衣やうり 士朗

花待 まの花や捨まやせても 若狭鯛 吾彦

初花 初冬又三つの中も 物のこゝろ 保吉

初櫻 ちつちと花の世の申 ちりりり 櫻堂

系櫻 雲り傘 ちりちり 系りりり 石芝

連翹 や野の草鞋のうけ 雲 巢兆

春日 ちりりのやまも ちりちり 松の雲 葵亭

蒲公英 まんねの 管提灯の 下りりり 春鴻

茅花 やまのひや 桜とちりり 茅花ぬく 可都里

芦芽 めりこの 風は ちりりり 角 莎笠

接穂 ちりりりりりり 酒とちりり 接穂 白雄

菜花 ちりりの菜や 二日はちりりり ちりりり 桂五

早蕨

早蕨や十日のあけ十日の指

存義

秋菜

苗木の印と山ふき山杉菜

巢北

蕨

やうと鳴くもさくも巣はくも

輪之

畑打

畑打よこらのまゝのりりり

蕨村

苗代

まのやま苗代あゝのりりり

保吉

鹿落角

鹿老て訓やふ角もる落す

全

雉子

妻乞や一夜よ雉子の山うのり

曉臺

帰雁

さくゆくとすれと雁根にまのり

春鴻

曳鴨

小田よあゝあゝてもひく小鴨も

乙二

引鶴

身のさくもまゝもや鶴のるよ引

笛と

乙鳥

乙鳥のさくもまゝもやみやこ

蓑太

鳥巢

あゝあゝ巣も巣はくもあゝ

関更

雀子

雀子やあゝの初もあゝ

百明

初蝶

あゝ蝶のちんさくもあゝ

白雄

蝶

あゝ蝶のちんさくもあゝ

佛仙

蜂

蜂の巣もあゝのりあゝ

白雄

蛙子

くろ子の牛は喚る、家くるひ

葛三

蛙

舟りけそくやうき田の夕

典洲

蛇出穴

蛇も穴出ると山菅いろくと

孤山

田螺

あつめを山へけまのう鳴田あり

甘好

弥生

鶯央の喉をれり

葛三

鷄合

鷄合眼もんくは来て衣をえ

曉臺

曲水

曲水やうく流しきハ波をら心

柳儿

雕

小雙の秋をさひく

夕彦

汐子

百ちりり小家や見えは汐子

成美

峰入

峰入や葉をよかきく

白雄

別霜

厚少霜のちくははぬり

全

永日

永さ日や帆影のさう

吳老

春海

いそりて寝る時起せ

葛三

花

花のあも

全

花雲

甲のうへをか

柳居

花曇

花をてく

樽堂

花雨

花の露をふきぬるありし夜も花より

重厚

花雪

花の雪をふきぬるありし夜も花より

乙二

花見

花見のときも花よりありすまは

完來

花守

花守のときも花よりありすまは

青蘿

散花

散花のときも花よりありすまは

鉄船

櫻

二三日のときも花よりありすまは

梅六

山櫻

山さくらも花よりありすまは

方廣

八重櫻

八重のときも花よりありすまは

みゆ彦

遅櫻

山ふりも花よりありすまは

月居

散桜

散桜のときも花よりありすまは

千丈

桃

少くも花よりありすまは

甘谷

梨子花

うられ家や梨一物の花よりありすまは

蘭更

海棠

海棠のときも花よりありすまは

岳松

木瓜花

木瓜の花よりありすまは

露堂

山吹

山吹のときも花よりありすまは

巢兆

躑躅

夕ぐけや水の底まで花よりありすまは

奇峰

藤

瓦片のまじり地も似ぬや夏の花 香彦

莖

當りの丈よりむくますくれか 柏翠

青麥

麦のや佃もつり 其真の家

茶摘

柿の木は飄覃うけく葉つる 竹芝

蚕

層々てあまの旅 森の葉や蚕飼棚 宗讚

麥鷄

畑ももあゝぬもあゝり 麦うつり 左一

暮春

麦うれてうくてふ調ハあゝるり 重厚

夏之部

立夏

夕の夜や木を掃除のけり 香彦

卯月

葉白ふ卯月も産む 漢村か 夢南

青簾

青すゝぬいつも月夜ふをほり 乙因

更衣

翌あゝぬ身をして夜うえより 佛仙

拾

まゝのもしれ矢殺のまは 拾う歌 蕪村

日傘

扱ふ居るまも日うさをほりけ之 香彦

扇

ゆゝとよのまのまゝにやるめふまか 春鴻

團扇 まつしよふ雲の敷どうつ 雲扇云 成美

新茶 槁のふりも私さ侍 新茶う那 其友

筑摩祭 於白さ白鳥や荒ア乃綱のうら 蘭更

葵祭 吳竹の世々よあひひの私ふ私 樗良

灌佛 灌仏やああふ建建一堂のあ 保吉

昼寐 初る寐るこそ松風小物の透透一一 全

短夜 ころあ夜や入入よそくく蟹の壳 完来

夏夜 夏の夜の夜にあらるものを波の音 菊也

夏月 夏の月窪窪ふふを跡りけり 千丈

夏山 夏の山うけりけりとぬきぬきものもあし 武陵

卯花 うの花や雪折折逢ハ逢ハつ跡跡るる 推己

桐花 空の院の井戸ハハるをる一桐の花 嵐水

稿 ちりし形も園の橋橋吹吹ふけり 柴店

茨花 花と針のふとひひと死死いとくく 千代尼

菖葉 水見えく尻尻は折折ああくく菖葉菖葉は 茅曆

青梅 喜梅喜梅や物物のややくく浪浪牙牙聲聲 來石

若楓

若楓まらもやまふれもどぬ掌色 吾彦

牡丹

う花うくと散けしめる 牡丹次 成美

芍薬

一本の芍薬赤し 花うりまの 樗良

葵

日ふうとく葵まをゆきと寐まふ 蘭更

罌粟

すく繩の雲の付りけし 蒼虬

苔花

志つうさせもふさうれを苔の花 樗堂

杜若

世の朝をうけし 花や杜若 太食彦

木下閣

下やまや丈婦うくし 梨翁

復木立

奥ふさき村は出りり 蘇村

麦秋

人夢や麦とる秋も 帰來

茄子

をさくく又筥の中や 梅人

覆盆子

さす掉よいらこあけり 柳居

杜鵑

子規身をうけりふの 万和

老鶯

学まの老りへ 得雨

鳴鳩

かんこもあくや枯木の二ところ 士朗

行子

さる所の有ともあはれけし子 木僊

鶉

鶉の鶉の鶉を知く衣まこ 春鴻

鶉飼

かあしさの昼もうそぬ鶉川が 袁丁

松魚

ぬれもよ夜ハカのくくと神 鯉 阜池

蝙蝠

く月くと赤とものよさあのは 寒崖

蝸牛

根ふくも草海くくと地牛 白圖

子子

子子も仏性なりや 檜 ちる 香彦

蚊

蚊より起て蟻しき親の縁息ハ 茶靜

蚊遣火

船くハ大名流乃故やアしり那 岳輅

筭

井の子や水鶉やアるも盗まらる 壽翁

蠅

赤髪を驚うしあり 蠅まら成 蘭更

幟

燕の子よんをまひ 幟の那 柳居

粽

こそくと夜あふかとく粽ハ 泉兆

競馬

あふふ人よとえとや落ぬ競る 五明

菖蒲

葎分そくろの先さし也新端ハ 蘭更

帷子

朝戸出や帷子をまきと 樹の雫 篤光

梅雨

ハきき梅雨もあつてはさきより

伯先

五月雨

あつたの夕飯をよき山家うま

玉泉

五月闇

うすあや草の紫あける五月雲

保吉

早苗

苗の色故のあき里のやうなや

乙二

田植

川上の田うゑはやくやうのふ

葛三

早乙女

早乙女の夕日おうんと久しかり

曉臺

若竹

若竹の柳の月をみよし

曉鳥

合歡花

合歡の花をさく風の節

宗賛

樗花

樗花乃掃除もろふや花樗

金彦

栗花

栗の花はるる花ひらりる栗

真柄

紫陽花

あつたの紫陽花はるる花ひらりる

五明

百合花

はつたの百合花はるる花ひらりる

成美

夏菊

夏菊や里の長あつた門清

咀翠

撫子

なつたの撫子はるる花ひらりる

紗笠

紅花

なつたの紅花はるる花ひらりる

吐月

藻花

藻の花は夕の月乃かゝるる花

金彦

萍 漣のうきうき時と 葉よりり 一草

青芦 香すはと芦のころ葉の棹の先 士朗

川骨 川骨の二もとさくや 夏の中 蕪村

蓼 蓼の香の柔味よき 傍の萱蔦が 政二

水雞 月と花や水雞あく 萩のうへ 素檠

青鷺 まき路のりう身と 知ぬ跡のうへ 樗堂

蛭 ぼくふんや 花ひらき 俄る 葛三

南天花 南天の影こころや 篠のうへ 乙二

六月 六月や 櫻よてり 心む 乾くも 貞松

氷室 不二とて 流しり 氷室の目 青牛

富士詣 小田原よ 医者のみさよ ふー 指 一蕙

祇園會 祇園を 今や 傍のよ といふ 梶り 舟 蕪村

雨乞 雨乞よ 糸も まーらん 葉の 結 彦 得雨

土用 老僧の 根杏を 知らは 土用が 春鴻

虫干 湖の 風うきりり 虫干を 羅城

暑

暑き日やむつ折のきし

塩叟

夏日

夏の戸や雀の巢きく夏日さく

雨塘

雲峰

三日月よかさぬけしう

米彦

夕立

夕立やとてふ涼しき境のけ

白圖

青嵐

乙名の羽よりさそふるきりし

甘谷

風薫

風薫る里や子母の作の契

圃更

涼風

きよきや涼しき魚の灯のうり

曉臺

納涼

鶺鴒のいつも出なふる夕すく

釣翁

清水

山麓の蔓よまうけく清水りか

菊所

晒井

晒井や髪を洗ける仏の日

一蕙

葛水

葛水や茨を中しく急の急

宗讚

心太

繩をとりてきぬりたや心太

吾彦

箏

矢のふよとてかてく一嘆ぬをむしり

万和

竹婦人

寐て後の何もおもはれ竹婦人

一枝

夏瘦

夏やとも恥うりるや角力気

玉光

蓮

ふとると見せてむしりもとるや蓮の花

野松

夕顔

夕魚のそよ名よる川也水の奥

雪雄

昼顔

昼う平の盞を睡るたところな

春暉

葎花

咲とくんえぬ死白きむらうか

万和

麻

丹え鳥の親子すくしや麻の中

蒼虬

瓜

水よりもよりうま涼し瓜のいろ

樗良

复草

夏とさもよりうま波の打うか

瀬更

复野

さうけあき苑うや夏野の夜の丁

士朗

青田

三月月の鯉振音よゆくま田

春鴻

田草取

入て通る行もこれわの二番州

み彦

川狩

川狩や鳥もくらぬ篠の雪

樂水

翡翠

久せや涼し水かといふ居るは

吐月

蝉

子供あもけさる蟬あく新の松

岱青

夏虫

冬ひろさ月あふらて夏のひし

方廣

御被

か〜〜とも潮あくま夕御被

月居

名越被

水むらぶのそよ名越の被う那

樗良

夏果

めあふの水うらら〜あ〜〜

河道

秋之部

立秋

馬買の 小笠 2 秋の 立日 式

白雄

初秋

初秋よくくとて 澄み あり

可助里

今朝秋

蜘蛛の巣 2 面を ともむ やり きの 蛛

存義

七夕

七夕や 夕月め 花の けり とも

あ教里

星合

笹の ともい 風の すき 吹り 早の とも

乙二

天川

天の川 田舎の とも とも けり

乙因

盆市

盆市 盆市 盆市 盆市 盆市

春彦

盆月

盆の月 人の 中り ともい けり

澧水

迎火

迎火や 上総へ むけし 月う けり

鳥酔

魂祭

鬼棚や この 世の 果と ともい けり

士朗

施餓鬼

施餓鬼棚 秋ハ ともい けり

宗居

墓参

燈の ともい は くりと 墓の 瓜 茄子

蘭更

燈籠

灯籠 燈籠 在家の 月ハ ともい けり

冬彦

高灯籠

高灯籠 高灯籠 高灯籠 高灯籠 高灯籠

蝶夢

撰待

撰待又雇うれぬふはとけり船

雪雄

踊

踊こゝ夫のあゝ町越ておとりの水

燕村

花火

ちとくといつら果と依花火の家

義香

角力

を付とあれも負より角力より

花陶

残暑

うとをるの鳴よはるも残暑は

世美

秋風

秋もさぬ船の嵐よ阿まの風

し二

稲妻

稲つまた一村後以宵の空

普記

霧

船旁の園をへりす車う那

士朗

露

秋の日と似と船多し草の露

六車

相葉

あゝらぬ人よりあゝん相一葉

月居

柳散

厚鴨の足とみしりちる柳

蘭

萩

夜の音やふとこれに門の萩

遅月

朝顔

朝うねの咲はくれふや萩の菴

五蓬

女郎花

はくさ本の赤うさぎのや女郎花

斗山

薄

世とまふささや花のむらぎ

菊所

尾花

夕らる家尾花よりくれり

祐昌

萩

萩のききの萩よりとてくき家居り家

馬印

蘭

月落て先知る葉の匂ひの家

士朗

芭蕉

破るををんこのやとこのくさし

樗良

野菊

引くをびりや咲きくよ言丸太

吾彦

秋草

秋のくさ人を知ぬハなううまし

葛三

草花

嬉しくさよさ部しくありぬ州の花

乙二

早稻

うさ里や門口やうもふ稻日和

梨翁

西瓜

腹畑に瓜の腹をす縄くもり

白雅

虫

虫あくやあさりよ人もあひやうよ

奥文

蝥

さうくはうかと瘦はをきお出さし

不騫

松虫

葉の平落松虫やうしゆく人り

宗讚

鈴虫

鈴虫よあさりくうさくすれが

井六

竈馬

ゆき夜やまこあくれと啼りし

尾 猪九

蜻蛉

蜻蛉子の海に飽てやんあしれ

玉珂

蟪蛄

引よをて蟪蛄うつりぬ下りさる

吾彦

新撰

蛸

むらむらや盆もさるる墓の松

蝶夢

秋蟬

松のせき啼つて秋のうらみ

青蘿

落鮎

夜ありしや落ちて人智測の鮎

白雄

弱引

坊焼てとも初ちはくいと

万和

八朔

八朔や籠ハる採りらのおとま

曉臺

放生會

松多し月夜も千も放生會

白雄

待宵

まの宵よ昼の曇るあやひちり

保吉

名月

名月や夜ハ人すきけの峰の松

真村

今日月

古寺のそめとそめゆるりふの月

白居

良夜雨

名月や何をさるる秋乃雨

土朗

十六夜

小いそ浪おとくいとよ月夜も

杜蘭

月見

月見もや葎のやとのこころ虫

存義

月

月よみよあはれりしとよの草

還古

月

月よみし浪あらしのあはれ月

樗良

秋月

あふりよ夜ハあはれり秋の月

雄淵

初汐

初汐や舟さす門のあはれ

棹歌

秋日

阿きの日結るるふれそ月夜介

木僊

秋夜

苗まの畑とあつとや 夜乃炮

允堂

長夜

去こ夜や子よをあつとく鶴の舞

袁丁

夜寒

寐てとや寸物や秋寒の灯の匂

杜蓼

肌寒

新息名く肌寒と夜の柱り那

蘭更

朝寒

約多の万年まきよう赤栗の歌

武山

秋山

かきとあつと秋の山

騏道

擣衣

洛中よ葛家もえは小夜歌

寄丈

案山子

抱ふ日も持と老ひかき

鳥醉

鳴子

宿て初けえ務まのちうふ鳴子

武陵

引板

山宿のこれを使りや引板の音

白養

稲

稲の秋系も雀乃あつと那

得雨

田川

表田川やめて体くふ身てもあ

蘭更

于穂

稲うける核も持し山家う那

馬印

粟

粟畑よ何をまた粟を于は

一蕙

芋

尻屋よの坂をうつ芋の紫くけり

巢光

零餘子

雀類もこれりまを来しをむくこちる

吾彦

柿

材うと一價も里の歌う南

保吉

蔦

居る蔦をふをりま蔦の徑外

乙因

初紅葉

初もみち葉粥の粒の覚え来ふ

表丁

芙蓉

立いてく芙蓉の凋む日くあへり

白雄

刈萱

舟渡の菊刈萱ひとりその色よ

暁臺

花野

席杖よ花野の嵐ふく日く那

春鴻

秋野

つきの野を吹くそりの霧何の霧

保吉

鹿

火のふけをんぞてやうかう山の麻

耒耜

初雁

そ何雁や月一雁ふかきそくす

士朗

雁

ゆき山の嵐をまや一雁の歌う

巴虫

鳴

鳴る川や多きそその風情あま

月居

鶉

鶉をく及如釋穂よすむむ

棹歌

啄木鳥

木つきの月不驚く木るうか

樗堂

鶴鴿 せとまふの笠木と走る物糸うね 表丁

新米 ちのちのちよ笑ふうきくくく 富屋

新酒 ちかて侍の場うきけあきく 酒 瀬陵

重陽 遠あもあきくくく 咲九日うね 立郎

十三夜 ちかちかの月も詠えう 十三夜 全

后月 ちかちかきくくくく 後の月 葛三

秋雨 火とりくくくくも夜となせ秋の夜 卧史

秋時雨 露時雨 霧て耳のちかちか 秋のくくく 玉光

露霜 ちかちかや水より起る物何くく 騏道

紅葉 紅葉ふんぬの傾城町をさきりり 三巴

菊 菊さきくくく きて来てるよ餅 梅彦

木實 深山の位ちかちか 木実りる 鳥碎

栗 夜すくくくのちかちか 栗の栗 草圃

椎 ちかちかちかちかちか 椎の宿 百嬰

菜萁 ちかちかちかちかちか 実と結ぶ 白雄

松露 松露のりや新よ乃阿る爺る象 有則

落水 二三尺秋の初くさやかき水 月溪

細代赤 罪はくる坊とけくそふや細代赤 成美

菌 万こまてりもかきや菌のり 鳥明

梅嫌 冬籠るやとりのれ梅もとこ 廣陵

行秋 けり秋の塵ともあぬこてふり 省吾

暮秋 馬下りくる士うれも秋の音 儿董

九月盡 繩も居ぬ時の家や九月 冬之部

神無月 小笹吹風も何やかきあ月 巢北

神苗主 灯もとて寝上るさひ 神の苗主 ち彦

蛭子講 けりのはき紙ハ死多 蛭子講 夢南

玄猪 采二升小萩のちのち猪の如 葵太

達磨忌 達磨忌や修りもさき 習うと志 蜂友

大師講 万の尾お縄もけぬめり大師講 喜齋

十夜 八玄湯も髪おろしとる十夜 月化

神無月

巻

御命講

梨子うまの庭とくおりや會式寺

雨塘

御取越

さうぞりり 梅も椿もゆとり越

柳儿

芭蕉忌

旅すうとあられの鶴よとせ紙翁

樗良

小春

聖を見まはす小春の門や牛のとも

湖山

冬日

冬の日おさすや繩とも 菴乃猫

樗堂

冬月

冬浪のさそひおしりり冬月の月

琴洲

初時雨

うまとしてあふあふよりりさつ時夜

士朗

時雨

さくあくやゆかしもちりりる満の雨

暹春

初霜

さくの虫は初霜おりりは 蕪菊の那

欽船

霜

有明の照何くしりりおれのま

千丈

初雪

初雪の鶏もくぬ家もあし

泰昌

冬雨

夜降ハ老のものちりり冬のある

呉老

木枯

霧の冬月の木枯は吹らぬ

雪三

冬枯

冬枯は親子負くるをくぬ鳥

春鴻

寒

おくハ梅の下もく多きさう船

袁丁

脍

順礼や仁王の前年 孫とあく

保吉

爐開 炉窓也 市よたをさや侍松の坊 重厚

口切 口切也 友をまの葉の敷あつる 不自

巨燧 長めり 分のけり 巨燧 柳凡

冬構 親連年 三冬中 冬りまえ 木父

冬籠 枕もあしぬ 本奥や冬こつと 百池

埋火 埋や 茶ふ 仏名くくももと 雪彦

火桶 有ふれこそのあふりする 火桶成 儲史

炭 火鉢 いんげんの油にさゆる 火障り物 赤付て 炭抄 庵のけし 椿堂

帝衣 糸うきこぬ裏とこ 老手りり 定雅

蒲団 子烏鳴 水坊へともふとんか 百郷

頭巾 きーとる也 既巾あくのいし 皮乞 丈龙

納豆 納豆汁 五三の相の 小き 筍 葛三

山茶花 山茶苑也 孫よ日のさけくさ 旭路

枇杷花 くされ 絲をさふくさく 花 佛仙

茶花 茶の苑の十株も 並ふ日 若翁

帰花 引よきそ折らてるりくも花 尾全

冬牡丹 降そく物多うれ也冬牡丹 一扇

水仙 水仙のふさふさおををあきものよ 花川

寒菊 嗅けけくき菊折よ這入りも 希言

枯尾花 うれ尾花をれてうけさす 莖りな 李冬

冬草 忘まよきうけあまき冬の小草原 守一

枯芦 山うけや灯いと海くとう海く芦 祖牛

大根引 おまひしんや百はたせしる大根引 其對

蕪 におひしんや百はたせしる大根引 白雄

木葉 十月の旅ねいふ木葉ふる 故友

落葉 来う、秋くもあうつくー落葉の戸 畠喜

冬木立 駕る籠うえる片藪うけや冬木立 茶陵

枯野 融の小きもを居るうり飛うる 蕪村

冬山 冬うの山戸ふをさ海うてくもく 嵐丈

水鳥 ありの湊あしむとさのりや 吾彦

鴨

濡あゝゝ登ふらうらや 後の鴨

弄山

鴛鴦

おひひ羽のかさあまらふつ 風の鴛鴦

車蓋

千鳥

赤耳と子鳥とをうら 志るぬ秋そ

野羨

寒苦鳥

冬苦鳥とすくふ 登ハあうれぬ

葛三

鶺鴒

湖のつけあひの 秋多みそけらぬ

乙二

冬蠅

まらまらの香をそ 早れはよ冬お蠅

白雄

顛汗

君の代の人並ひりり ぶくと汗

篤老

杜蛎

ちりりあまむさきふらる 香の杜蛎

保吉

綱代守

呵へららる鼻の先うら 朝をけけ

雨麥

霜月

おろろのあまのそ ねんよをまき山

玉珂

冬至

冬至あくと知てう 海りあ小里か

野羨

髪置

かきまきやうら 通昭もそのむら

九簾

神樂

あまのまのあすの 楚り那神あ結座

万和

吹草祭

こころくは吹草祭あも するのよ

輪之

御火焼

清や焼やらふは 清りそ神の歌

一草

鉢鼓

柳の葉よ青も碧も人酔ふとき

真栖

寒念佛

冬より夜やりまれそ飛れそ冬も仏

鉄船

報恩講

阿まうお付そそり形り清雲月

菅原

貞見六井

顔見ぞの暮よ夜半の阿より

藤村

雪

菽也や豆鼓はくりそ雪を待

桃彦

雪國

雪國や詠めよ出ても笑も歌

月居

雪見

雪みんて雪もみる雪もみりり

屋島

霰次

満ちぬを霰ゆけ出りて霰はかき

起石

霰

多しとと年の雪ふるそそれは

全義

氷

拾ひり一の多しやあらし

袁丁

氷柱

山里を月さけ初もはらり

芳之

凍

旅人の足凍り春も道の凍

吾彦

冬梅

最勝の日あさほりるり冬の梅

環阿

寒梅

冬も梅やさし出りるり冬の梅

古樂

冬椿

菜うりる椿も日もあし冬の椿

乙二

鷹

宿の燈をすえそむける夜の衣を

春鴻

鷹狩

新川の衣を狩りて身をまじりて

白雄

煖鳥

ふかき夜に火をたきぬく鳥

無説

師走

日ふつとるの泥のむし歩き

表丁

川ひら

新川のかわを砕きつ川をこぼ

石芝

臘八

臘八やあんげら水よりふゆ時

大標

仏名

僧達もかくてハセテハハハハハ

曉臺

事始

事始葉のうらむるの麻のりん

千柳

入寒

底のりりすも湖のぬるぬる入

松兄

寒雨

大名のあつらひ知れぬるぬる

玉珂

寒月

寒月や山鷹の宿もするぬるぬる

乙二

薬喰

うんよる一ツ老りりくまららひ

吐月

乾鞋

かき鞋やうらむる人の老

車蓋

年内立春

年のうらむる虚を借りて日の長さ

柳八

追儼

鬼を追ふ花より厚き口田うら

葛三

終賣

うら所や傘片をすまら終り

南井

節季候 昔々の世も何れもや半歩の 輪之

煤掃 煤もくや山崎の家萩のやと 三津人

餅搗 餅つるや梅を叩くはまらすれ 梅兮

衣配 僧も世よりくられとをきぬくも 平角

年市 年削る絶ある買んらん市の市 吾妻

年木 年木はむ何れくや西の杜家 和調

年忘 年忘廣世の勢をくんりいん 樗良

古督 古督の洗濯下ぬやとく 吾妻

春待 妻ま川やとく魚不ぬらん 仝

來春 喜のくも只めくも 芥子 存義

行年 捨く年や夜もきくおぬ木の風 蝸國

罔見 費しく日をくもゆりも 葛三

年籠 何れもの何れもあはれ中 如斯

歳暮 くれりり年や給の何れも 卓池

大年 大もくや人の出てくるせう 白居易

年夜 かのりの荒るあるそ 年の宵 登彦
除夜 ゆうやとんれそえり 除夜の梅 樗良

掌中新五百題二篇

田喜菴護物 輯

春之部

立春	二日ふらえ日くら影のおとく	丘高
初春	初もるよよころのさゆる	厚子か 緩駕
今朝春	人の親乃あうるえり	と乾の春 松兄
花春	月の夜よある	嬉しさで 花の春 屋鳥
示日	え日とおりひのまら	如 物 森か 綱更

新五

初日 日のえしめ神こと告よ鳩二つ 菴十

初空 初空如大樹のうけの日の光 星布

初鳥 初鳥沙々々をむるうら乃人 雄淵

若水 若水や上野のうまの老をうけ 安静

初曆 初曆とらもつらにそ何曆 吐月

初夢 初夢やうれうら勃く人ん 繁女

書初 初書の画ハ松の笑もん書初寸 高松

門松 素人のまのまの初松の門のまの 雪雄

蓬葉 蓬葉やうらうらうらる 雪の糸 田鶴

水祝 一村の沙はよあらとらり水祝ハ 古樂

万歳 曙をむく万歳う扇の那 三女

猿曳 狙公やうる将の牛飼ういと云 ノ且

子日 空清ぬまのこともとる 子日ハ 方明

小松引 松のいと方もりぬ小まの引 可都里

七種 七種の六日の月乃板るう那 士朗

若菜 若菜うち小男の片まらわり葉あふ 雪雄

新玉皇

齋

齋提り、何れもくさふや齋らり

乙二

芥

芥の葉何れもけふら根芥は

諸九

飾焚

人も住む飾焚なるいと山田

画中

養父入

養父入やきりく見えり古の山

万和

御忌

うち水とよけく通るも御忌の鐘

重厚

余寒

多しの寒も何る寒も夕夕

喬駟

春雪

消るるもふらつるや、春雪の雪

柿磨

残雪

何れも雪も多しの雪の屑牛房

吾我

雪解

雪とけの乞食も多し山路か

杉長

長閑

長閑しや格もふもるうら山

一蕙

陽炎

うけ後入や身をもて余に家ある

松司

糸提

糸提や山雀籠を様よあく

吾我

霞

霞日や、ものうらむこむに鴉の子

宇洋

春風

春風や、吹く落る鹿の角

岱青

福壽州

福壽州も、さぬをいりり

大瓦

新古今

梅

三日初と暮とてふれえ梅乃花

路丈

梅月

雪すれ氣之梅の月夜う那

素龍

散梅

梅の花ちりてもりなき

篤老

柳

そくふに旅友達やうらた吹

瘦菊

青柳

青柳や四五尺のちも雪の中

月居

梅柳

梅柳東海道の大けしした

ほ免

椿

咲るそく藪山免く梅玉つえき

乙因

木芽

日め入也の心限りなき

一蕙

草萌

草ののちえ花の鏡のちうま歌

星譜

落臺

年ふれえこれも親しや露の草花

武陵

土筆

今一度雪う降ふそつこくし

一蕙

百千鳥

揺るも月日う庭るそ

樗堂

鶯

羽さひや鶯のしとのちんる木鳥

万和

雲雀

あくち雀羽立る清山へうは見

ノ且

駒鳥

駒鳥橋の駒瓶のされ流日よる

保吉

鶯 鶯ふくや木うぐれそむる梅う花 五彦

猫戀 春の日は乱まきとん孫この恋心 可相里

白魚 白魚も世をぬくしあ眼のまよき 園更

蛭 淵を覗くもちなり 蛭うと 渭翠

海苔 菴の夜は海苔火とると更より 升六

衣更着 さらさらとふ飛ふ阿る家のわらある 東鶴

初午 初午や花さきて阿る 館の麦 芳之

新能 芝能や用あき水沙の二人まで 林下

涅槃 孫らんよきも世の中よりうれしむ 巢兆

彼岸 くれとらるりも仕立ぬむらんり市 万和

二日灸 二日灸牛の体も休けむの 五由

出代 出代やむそふりや大田炉裏 梨翁

風巾 風巾ふりて穿しき夜の柱が 士朗

朧月 おやろ月見え来あくも有り明ぬ 草阜

春日 春の日の菰槌ありの苗まの葉 也好

春夜 春の夜あかりとさねひよとさうり 葵亭

春雨

小口り春るるに 新う那 雨塘

春山

海為よ巖かくるそ 春の山 無説

春野

春の野や空流り 竹妓

春水

春の水料何るそ 瑞馬

山焼

春よさへうた日の何るそ 山を焼 碓嶺

紅梅

紅梅や家の目何ての垣根川 斗入

花待

花まつやけそくくと 葵亭

初花

初花 萬三

初櫻

うそ咲交の脊戸や 初櫻 可於王

糸櫻

名よ死と人の塚あしいとさく 石芝

連翹

連翹の葉ハさえぬよ 蒼虬

蒲筵

まんやや 流より人の里の春 冬彦

茅花

流ぬ子あついても 連ん 月居

芦芽

芦の芽あつ小ふく 一盤 香彦

接穂

接穂をよと物く 起す 羅凡

菜花

菜の花や燦の古家 釣く 鳥翠

豆蔴

あふり布さつらひ八名のうはらうさ

玉珂

秋菜

喜ハム秋杉菜よ成るはるり

朶年

繁縷

畔畑を田小まる土糸もくく

亀文

畑打

うとふ糸ふよあれともうらた産の畑

布成

苗代

苗代の夜ふ乾水 親のふきの

冬煮

鹿落角

とと落と角を嗅け 女糸うま

公

雉子

走つうねあとのらうさよ雉子うね

風芝

扇雀

中ふまのふ合

扇外

曳鴨

居るよさへ舞しとせ鴨の連うり

護物

引鶴

序不との義れあくく鶴の印

竹見

乙鳥

はをらう結輝うもあめぬ小糸式

士朗

鳥巢

鳥の巢よとくく葉一の物日式

徐覽

雀子

雀子もめて嬌ーや山杉 表

由表

初蝶

初てふやちりして喰はるの布

得雨

蝶

あのを子のやうよ蝶退 肉飯

北真

蜂

まらの巢の何不足なく見ゆる

雨塘

蛙子

蛙子やてる白も水のむつきき

月化

蛙

松陰の湖へともささむりり

菊所

蛇出穴

も穴出しとりふのゆきとる

冬夜

田螺

静さハ妻もあつらり啼田螺

真澄

弥生

とさわとの雨や弥生もあまら

李東

鶏合

勝鶏のまありかん

瑞馬

曲水

虫糸や芦乃の巻も急又生流

寒松

雛

雛の雛もあつらり啼

真々

峰入

峰入やうしゆしゆをむえり

月化

別霜

雪の灰の落つく物や別霜

可磨

永日

木を引も目赤さきや皿の上

守豊

春海

よきうた浮藻も芽とるの海

艸夫

花

花の眼も丸ふしゆりや花山

玉珂

花雲

白雲をみるかきくあつらり

士朗

花曇

曇るうとあつらりむの霞平日

輪之

花雨

つふとるもあまをみぬれや西の花

葛三

花雪

犬のうしろ程もあこを尻の雪

玉光

花見

雪よやう控ゆる ~~は~~あらんのか

雪彦

花舟

とくくやむち宿の薪一鉢

士朗

散花

らる花やけくさくさりたの程

乙二

接

ゆきゆきの急よ風ゆく接うね

巢兆

山桜

とれとりと雨をもちりり山桜

斗入

八重桜

そよぬやともむりり八重桜

逸翁

散桜

ちろく桜二日の月乃 薄くあり

北賀

桃

弓あともうけて心柳のむり家

芝得

梨子花

梨子のむ白さる白きちりみり

月化

海棠

海棠やあさく人安き急の色

五明

木瓜花

雪きまき木瓜子あさくさゆゆ

輪之

山吹

山吹や人のをり 昼ト

袁丁

躑躅

はくしんかー矢ひぬ小挑灯

素共

七百二

九

新古今

藤

緑のこころを藤の夏のはげしき可翠

萱

小葉の如く塵のやうに平すもれうな寒崖

青麥

草麦や後を引する大の靨古玄

茶摘

柿の赤く瓢箪のけりく茶摘は竹芝

蚕

布の袂に糸をく素子うり那蘭更

麥鶉

はうくと出て海をうり麦うり雪逢

暮春

紫陽花の空にけりむるやまの暮眉山

行春

春かこむ心とくくはるる月居

夏之部

立夏

川の夏の焼耐くさき遠り那芳居

卯月

花崎の卯月曇りや清り那澧水

青簾

青すしれ暖さうりやあ月居

更衣

山寺や燈のけりて衣うえ巢兆

袷

あけぬ日や竹林麦の葉の袷登彦

日傘

折くハ月もぬる日傘式如耕

扇

松の葉のやうふときふ扇う那青牛

新古今

新古今

團扇

新らうきうちと持りりくさ枕 信 文兆

新茶

さく庵とる待宵の新茶 信 秋窓

筑摩祭

うつらき葉はつるや 猶まのり 吐山

葵祭

宵もち六日南よびくや けり葵 瘦菊

灌佛

年くくよけられく無を素仏 信 素因

昼寐

馬あくや音寝起よとハツ下 信 昏産

短夜

短夜やあくれ跡も 枳殻垣 万和

夏夜

ちよ山と暮るく夏夜 信 以木

夏山

あつ山や袂よそく 新すり火赤 菊所

卯花

うのもや雪折 笹ハいつのり 推己

相花

花う何小里よとて 相の雪 保吉

橘

橘や何印くのあき 砂の上 卧央

茨花

茨の花ちるとぬる 折る雪の家 乙二

若葉

ゆものつら葉よ涼さ 月日く 貞秀

青梅

青梅やあまこく久く 教を友 あけ

若楓

新まきとす栲や楓ふまのいろ 扇扣

牡丹

香くくと牡丹を岩手 薨う那 羅文

芍薬

はあゝあゝ芍薬園と城より 白雄

葵

管の碎葵ふよりは免そりり 巢北

罌粟

白けやや罌粟日書をあくる 芙九

苔花

かまきりおしゆれまふ苔の花 嵐丈

杜若

万石の地への入口やかまつき 時嘉

水冲茂

おくさ糸と茂るやはるをこ 図南

木下閣

畑中や椽四五本の木下や ち彦

复木立

此のり唐のりりり復木立 宗古

麦秋

黄名のそとても老へ麦黄をむ 北冥

茄子

もろ茄子傍顔の笑貞おきりり 春鴻

覆盆子

土の鳥もち用よちり 腕いちこ 香

杜鵑

酔さめや山をまはれ 舌凌

老鶯

老れれく鶯の身を添入す 如一

鳴鳩

かんにき雲かこあへるものほし 守一

物名目録

行子

ゆく子世はてきぬまきもりな

而后

鶉

放し鶉も日し舞よまねか

長翠

鶉飼

あしきく親も歩け鶉の火あふ

成義

松魚

ぬま色よ夜はけのくと神饗

阜池

蝙蝠

蝙蝠や檜桐の皮切えはころ

東哉

蝸牛

みの虫は侘もまらぬ牛

白因

子子

はらふまことの持てはるちう

屋烏

蚊遣

蚊の夜を甲舎の障り

秋長

箒

木の子や鏡くらとあしころ

登美

蠅

松陰の蠅よりと松板う那

樗堂

幟

片町の帰帆よ交るのやう

太無

粽

焼くころと旅人むまふち

菊所

競馬

あまの鳥の白さふまけ

石芝

菖蒲

傘ふさふさぬるもの菖蒲う那

天外

帷子

帷子やあふく病ある月あ

撫月

梅雨

梅の花もいふ実もあつぬ梅の夜

吾妻

五月雨

降る雨もあつぬ五月雨の夜

九士

五月闇

五月の闇もあつぬ五月の夜

保吉

早苗

早苗の灯もあつぬ早苗の夜

叙米

田植

田植の餅もあつぬ田植の夜

星譜

早乙女

早乙女もあつぬ早乙女の夜

巢北

若竹

若竹の節もあつぬ若竹の夜

可厚

合歓花

合歓の花もあつぬ合歓の夜

名心

榊花

榊の花もあつぬ榊の夜

乎焉

栗花

栗の花もあつぬ栗の夜

一粟

紫陽花

紫陽花もあつぬ紫陽の夜

乙二

百合花

百合花もあつぬ百合の夜

来相

夏菊

夏菊もあつぬ夏菊の夜

桂程

撫子

撫子もあつぬ撫子の夜

や

紅花

紅花もあつぬ紅花の夜

雉啄

藻花

藻花もあつぬ藻花の夜

方中

萍

うきうきあやまれば格もなきよ花よある

屋鳥

青芦

うね世経んふれり青芦の丸をく

奇花

川骨

川骨や多う。故の虫くひ葉

白雄

蓼

留もんで蓼もちとふらき柔色か

巢北

水雞

朝泊よきぬうみ鶏の宿の荒

水海

青鷺

まき鷺の足と流ふや七ツさ

玉光

螢

官笠の螢を燈ふ宿登う船

典路

火串

火串つゝ窓くゞゆる不々火

雨塘

南天花

南天の花よぬまこりり小門口

鷗里

水無月

水無月や跡芽うられよ多き飛

長翠

氷室

松心くゞ山をゆさる氷室守

紋子

富士詣

不二垢離の赴くくゞを月夜か

九二

祇園會

夕立の活興流ひや神らら

柙八

雨乞

雨乞よ幸先のようや船のや

玉光

土用

菽伐の常知もや土用入

茅磨

虫干

虫干やうゞやまらら料理人

香麩

新古今

五

暑 ころろ船つけても暑のこころのま 年猪

夏日 山水も夏日のさせそのをまぬは 雪

雲峰 雲の峰渙村の柳 ちろろちろろ 乾天

夕立 ゆふゆふやけけけ 疑のまの麻 月居

青嵐 まき嵐すろろろ ちろろ男とも 那模

風薫 うせ薫る梅の下も 松陰も 喬駟

涼風 すくくさを深まろろろ 庵ろろ 岱青

納涼 涼しさを物良初とらつ 咲とめて 成美

清水 こころの清い水よあはれと 山の児 三津名

晒井 ちろろ井も床るのちろろ ちろろ 双湖

葛水 葛水もまろろ肉穢のまろろとも 胡準

心太 味もろろろろろろろろろろろろろろ 何九

簞 懐初とろろろろろろろろろろろろろろ 武陵

竹婦人 赤宿ら南のちろろろろろろろろろろ 三顧

夏瘦 夏やちや 人よとろろろろろろろろろろ 菊後

蓮 浮れくさためとろろろろろろろろろろろろ 十影

夕顔

夕の白や生洲へ舟の下通也

秋举

昼顔

夕の白や生洲へ舟の下通也

素樸

葎花

花葎花の酒の心

竹因

麻

麻の心

百嬰

瓜

瓜の心

舌鼓

复草

復草の心

長翠

复野

复野の心

丘高

青田

青田の心

海贗

田草取

田草取の心

表丁

川狩

川狩の心

鶏六

翡翠

翡翠の心

玉光

蝉

蝉の心

袁丁

夏虫

夏虫の心

青牛

御杖

御杖の心

輕舟

名越杖

名越杖の心

母鼓

夏果

夏果の心

寒松

新五百三

表丁

秋之部

立秋

塗桶のこぼるる秋とありふりり

後光

初秋

くら秋の浅るる小菖うき

管庵

今朝秋

松うけゆるりあはれ乃さの秋

李川

天川

用もあさ舟乗歩はや天の川

乙彦

七夕

家恋の父母まきし七日の夜

篤老

星合

星合や星うり星てらるは乳の人

圭

盆市

うり分てゆるさお盆盆供ら依

泉年

盆

りおれての二幸さうらり盆あめき

士朗

盆月

筆うりの所の家うり盆の月

有彦

迎火

むらひやや奉おしとて月えぬ家

全

魂祭

雪を雪の来る秋蒼むら女弁花

真恒

施餓鬼

七夕のころのふらむの施餓鬼

吾彦

墓参

墓糸下結る死智る寺の門

菊雄

燈籠

馬次のころのそり燈籠

芳之

高灯籠

高灯籠のそり燈籠のそりへ

白雄

撰待

袴袴の物柔のそり鶴尉の如

護物

通

おとれよく通の中を通り

還素

花火

雨雲のさらく浦田の花やうを

義香

角力

かゝ袴の松も名なれ算お樸

挂枝

残暑

山梔子の花と見付し跡星

葛三

秋風

秋のやけしと賣のく介町

二秀

稲妻

稲妻よあししの牛跡

奠加

霧

霧きりぬる霧よあるま

お助

露

神あやふりてとゆるちの犬

五葉

桐一葉

桐うさぎくやうと桐の一葉

平山

柳散

黄昏や宵くらをち法柳

東一

萩

萩さの余りてちる萩の花

里外

朝顔

朝顔よ翌の糸うけ雛

雞州

女郎花

伸さくやうつ娘ひぬ女郎花

茶静

薄

遠るれのスするや芒の八九月

我意

尾花

ちのまてハ見くけもさぬ尾花

茶静

尾花

萩 飯糰や下巻をくれむ風の萩 成養

芭蕉 葉白し露のふるまひみくられと 乙二

野菊 芭蕉系よのそとてさびりり物あたら 烏頂

秋草 身をとりたててこれぞ野菊も白ひりり 棹歌

早稲 色多のこねたてふあし 暮の秋 微席

草花 畑のくはまよも花の咲よなり 菊女

冬瓜 早稲のまや乃さかしくも 鴨一ツ 時嘉

西瓜 湯枝ぞくゆりりあへ 冬瓜汁 冬彦

虫 鞍壺し西瓜をくも 庚子馬 足彦

蚕 むしとほく 蚕とくあふさきやむら 蘭窟

松虫 蓬生よのいされさまんや 蟋蟀 蘿月

鈴虫 木の虫や風のふくあいのちの中 巢兆

鼈馬 すす虫をたれを 穂葉も世風 冬彦

魚 くるえろろ老うれてあくいとろろ 魚俵

玉珂 巻う子の海に飽てやろんはつる 玉珂

蜻蛉 蜻蛉のまきろろよあゝ早 棹歌

鯛 鯛の夕ぐけ何ひる小寺の船 吾妻

単 杉のせき啼はく秋よらうりり 青蘿

落鮎 花の鮎ぬ糸よさいて落るる 保吉

鯛引 何あややわしの上のおとく 李尺

八朔 八さくや船初をの 春鴻

放生會 物うめて牛も藤る日た放さる 竹世

待宵 待よひを月もろけぬや 吾妻

名月 名月やらふ集る野渡 野渡

今日月 始知るる有るけをてりかの月 月化

良夜雨 名月の白ひさたり 雨之粒 可那里

十六夜 ちかよもいさよふ月よちひたり 冥

月見 物くれて馬のく人ある 月見の家 擗良

月 月や午夜まのあもささる宵か 草友

雨月 雨月もあれり 雲の宿 士朗

秋月 入おとらぬてより 何れかの月 乙彦

初汐 初汐よのせき一葉ありを扇 秋 雉扇

秋日

秋の日は引ける 藪の砂まみれ

輪之

秋夜

秋の夜や舟やうらふる白し

卜蝸

長夜

門あけくさるる人あはく夜を告ぐ

不尽

夜寒

夜や寒く寝るや笑のうけさる

魏道

肌寒

肌寒やと免やま落し夜の燦

春鴻

朝寒

朝寒や多の暮る鳴水あし田

旦女

秋山

の川あはると雲ととあはく秋の山

菊也

野分

まて鶴や野分あはく春の野分

春鴻

擣衣

あはくいさ乾くぬ衣うつ

月居

案山子

あはくや推をあはくよまかじ

雪人

鳴子

あはくさの暮るあはくつ鳴子か

棠蕙

引板

あはくも旅とあはくも引板の暮

赤石

稻

稲を穂よめてさし門の神流を

北岱

田刈

刈柄や芙蓉のちも門垂り

冬衣

穂

山里や丁稲よるる月の色

袁下

粟

山里や穂も通るる粟を丁尺

一蕙

新五百三

廿

芋 甚質ちと船芋持て此所の産 乙二

除子 葉の戸よりれをむこよ呼れり 樗堂

柿 木中りの柿の赤さよ 尼う庵 敬義

葛 写るるぬの写もろくくは破れ葉 茶静

初紅葉 物森とく初の色もく 蕉雨

芙蓉 多うある芙蓉のむの夕哉 并六

刈萱 刈萱の片垣美をむ夕う那 士朗

雞頭 鶏頭よ身ても只居ぬ雀うな 雪彦

花野 牡丹茎の牛より下は花を野 乙因

秋野 秋の野や守追くさる風う以 野重

鹿 うきとけそのうらえあうの夢 翠川

初雁 刈跡に麻も実よあれ雁来をむ 克一

雁 雁あくや身ははまされぬ小風も愛 真恒

鳴 鳴るるの鳥はられも 夕鳥 福米

夕月や草むけりてくちうく 蕉雨

啄木鳥 きたてこの燕うよもつも夕日哉 乙二

鶴鴿

せさむしの来とふ舟よする機織ふ
宇橋

新米

新米や焚きおろす香も朝のもち
寥松

新酒

阿茶片くそ色よ出りけりそ酒
春鴻

重陽

細の子のそれふも入より少の菊
吾彦

十三夜

裏園の文る小早し十三夜
士峯

后月

昔むくくもささ入る月のら秋月
葛三

秋雨

捨籠の藪木うつりも秋はる
流芝

露時雨

は白けぬ瘦らんあまの花の上
得雨

秋時雨

つゆもあうそこのぬきものよ秋時雨
乙因

露霜

玉露もあや 妻途へしと此のよ
茶静

紅葉

あ紫もあ 似雉町とるさしりり
三巴

菊

何あし灯よりちりり菊の露
梅櫻尾

木實

ゆきや鶉もむく板の實
普記

栗

栗ひろふ山路とあまやあま
弓雄

推

推の實よりあしゆされて鳴鼓
吐雲

菜萁

くまのそをあましゆの目あうま
炉扇

松露

波 ぐく入 入り 松露ありき

守二

落水

わろ門も ぬらりて 蜻蛉 落しあり

蜂友

網代赤

赤う雲を 探りて 網代うね

棹歌

菌

きののいたぬ 入り切 菌を 得

得雨

梅嫌

身 初 梅の 秋 小 花 とも 嫌

文貫

行秋

ふの ちの ちの 芦の 末 葉 秋 たり

与人

暮秋

暮 秋 舟の り ちの ちの 情 秋 の 暮

春鴻

九月盡

九月 盡 ちの ちの ちの 九月 尽

玉光

冬之部

神無月

も 深 け や 木 実 ち 休 家 の 神 無 月

名恒

神苗主

も の し 美 小 ちの ぬ 糸 ちの 林 の 苗 主

谿齋

蛭子講

女 房 の あ ちの ちの ちの ちの 講

孤山

玄猪

口 ちの ちの ちの ちの 那

吐月

達磨忌

達 磨 忌 や 南 天 の 入 ち 汁 の 中

乙二

大師講

大 師 講 ちの 子 ちの 辞 や ちの ちの 大 師 講

宇橋

十夜

提 ちの 忌 白 ちの 十 夜 の 儀 ちの ちの

蕉雨

御命講

酒樽の車引けりし御命講

茶静

御取越

杉の日の結きよ御取越

巢北

芭蕉忌

今昔とてけをめでし十二日

無説

小春

風より飯の香れある小春哉

百嬰

冬日

田舎あけや冬の朝白の水より

足彦

冬月

志を付て草より入り冬の月

李冬

初時雨

立鴨ハあけもあけ年 初時雨

澧水

時雨

さし雨さきのまゝくるとて時雨

燕之

初霜

その霜や枯らる萩の節と構

扇暑

霜

菜もさけや霜足ひく霜より

芥杖

初雪

その雪あつとつと降るとえを死

椿堂

冬雨

ふりしとハあけぬものさきのも

吳老

木枯

木々々々川越より琵琶法師

棹歌

冬枯

冬うれや蟹のくつれよるの良

存阿

寒

ぬるる冬よける寒さや麦の中

巢也

河

る河より牛盗人のゆく橋より

訓山

脍

孫の多年蔵おろしりあや孫

夷

燐

ろくろや宵の草種の花り

春鴻

爐

炉をめて友部くう坊り

蝶夢

口切

口切や水のりふるあまを

吐月

巨燧

佛種の明りを集るあくら

木木

冬構

孫本下段貝有あくら冬構

昇魚

冬籠

松りあふ二とるあふ冬籠

鷺列

埋火

うつろや寐跡さるる庭の坊

采友

火桶

投りよきあもあくら火桶

虚舟

火鉢

何よりも初くさう焼く大火鉢

碩布

炭

家のよの夜そと先く炭の海老

魚眼

帟衣

帟衣系て乳ぬきそふを親父式

玉珂

蒲団

すろりくとぬけあくらふとんか

菊雄

頭巾

孝經をのきてあくら頭巾

ノ且

納豆

納豆汁あは嵐のいぬ甲くら

月峰

山茶花

山茶花や一枝うれていつの頃

雪羞

枇杷花

咲き降るけりも多き足るる花

蘭

茶花

茶の茶や夕日せりけり山の町

車両

帰花

瑞りし年のまもりや帰花

八朗

冬牡丹

十月の花をさしこゝろん

双湖

水仙

水仙のちりりるる花とる

翠喬

寒菊

冬をさるるよれる庵のさき

鳩居

枯尾花

ちりもさるる果る枯尾花

蓬松

冬草

冬草よりさるけりあき

丸

枯芦

のさる芦やりそりと汐の乾く音

石老

麥蔞

あるや限り麦まゝ末の改をさけ

白雄

大根引

船取の季よりぬ日を大根引

杜蓼

蕪

松のさるる葦のうららの落まき

三枝

木葉

かさありて濃枕へす木のさき

掉歌

落葉

繁う子と雪をさるる落葉

蓬松

冬木立

尻後の木て鹿のうらぬ冬木立

旧交

枯野

夜工入るる山平ある冬野

雪雄

冬山 折へす多ふもくも於冬の山 菅野

水鳥 水多枯葉よりくまきりるれの波 乙二

鴨 一番那屋のうち所々を鴨の死す 笑九

鴛鴦 ちりちりの妻ひくくよ入日のち 萬籟

千鳥 鶉のそそく鳴り ちりりうま 伯光

寒苦鳥 足りける木もちりりくんこき 竹見

鷓鴣 一羽も妻あ子ハつれは こそ所方 葵亭

冬蠟 冬のもく登即く所の桑木もく 玉珂

木兔 みつくの夜飽て居り木真か 宇橋

阿豚 船市也河豚のふれ日ハ風をくく 吐月

鯨汁 大津鈴の鬼も眠くう鯨の橋 東一

生海荒 ちりちりとあまのそをぬき海荒 扇和

杜蛎 石花抄ふ浪もちまのちまもそ 士朗

細代守 ちりちりちりもあまのちりちりま 孤山

霜月 ちりちりやちりちり山の 皺 羅月

冬至 刺息若あり ちりちり冬至うま 南井

秋五十三

南井

髪置

髪置の世ももええは革をとり
女阿修

神楽

多ののそもろくともる神楽は
菊程

吹草祭

吹草密掛多きハリ子しき
孤山

御火焼

火焼の長もも鳥也若金足帝
木木

鉢敲

そらそら鉢敲るあより多けり
松翁

寒念仏

寒念仏枯あてしこを暗くゆく
万壽友

報恩講

るさうう涙もろくさよ伊勢月
蓬山

白見六井七

白見と瓜なりきさの葱の味
孤山

雪

雪ふるもささくともる宿の外
茶来

雪国

雪ふも月よりるを大幸う海
夢南

雪見

舟よりも馬うりあてし
平写

雪吹

雪吹や雪見のうもえぬ裏の山
保吉

霞

笹原や瓜先ありしあくれ飛
嵐兆

雲

鯉の眼紅鶴ふぬくも雲う家
守三

水

組りまきまのまきやうも水
茶静

氷柱

氷柱のまらうてるあねが
与し

新五百三

岸

凍

凍る見如露の中の一魚の目と

玉珂

冬梅

く風の物あきし一冬の梅

呉葵

寒梅

寒梅の二本まきさく屋敷に

篤老

冬椿

人と象つるやさくやみ屋敷に

雪雄

鷹

鷹あくや何うありくる脊戸の山

知及

鷹狩

霧あきし一峯の影ありし

乙二

暖鳥

山下く何きをありしや暖め鳥

全

師走

冬もさきものや師走の影ありし

孤山

川ひり

物あきしそ羽織し一葉と川ひり

碩高

臘八

臘八七峯の影ありし

植立

仏名

罪らきかきえてや雪はうけ給

柳凡

事始

人のすむわりのりしそまきし

梅人

入寒

雨あきて多し船一轉の影

中書

寒雨

扇をる隣もあけりし

表丁

寒月

寒月の影あきし戸のひり

春野

薬喰

節と日こそあきし日こそあきし

五明

乾鮭

かゝ鮭も湖氷の浪不活く也 士朗

年為春

年のうちふ春は春より青ひる 全

追儺

く越の故もまらう 祝 汁 吾妻

終費

二度とあて息をそまぬそ換る也 巴人

節季候

猿引の似くうそもはし 常季人 泉之

煤掃

煤掃をそそき 四隅のはくらく 茶静

餅搗

餅のこを梅を叩くは 春うすも 梅今

衣配

嵐をうまのそあや 衣くもり 平角

年市

余のぬや短子も鬼も 年の市 白養

年木

大木ののうく 年の木の葉うら 竹児

年忘

うき恋も似し 乃らくさる 年忘 青羅

古曆

曆古し 栄物の尻の巻はあて 可磨

春待

春と待服よ 乙多の 古菓うま 藻路

來春

戸口をへあまをまきく 秋まらふの風 鳥口

行年

け年のむく 冨きし けん桂 杉廬

固見

けくうりし 恋ふとあま 夢南

年籠

眠りれを梅と見よ出くさ

義

如斯

歳暮

ふれふり年や鯨の所くさ

卓池

大年

大年や海連をたぐく

古玄

大晦日

小正月の棋子さくや

泳信

年夜

年の夜や鶯ふけ

乙亮

除夜

松うせや除夜の枕を

保吉



